

第58回 RIDCマンスリー研究セミナー

考古学と歴史学から紐解くマヤ文明最晩年

スピーカー

立正大学人文科学研究所研究員

白鳥 祐子

日時

2026年7月1日(水)

12:00~13:00

場所

オンライン開催

タヤサル遺跡から見たフローレス島
(1697年陥落のイツァ王国首都)

本講義では、スペイン人との接触から征服までの16世紀～17世紀、征服されずに抵抗続けたマヤの人々について、コンキスタドールや宣教師などスペイン人の記録と、植民地期にマヤの人々により編纂された年代記などの文献史料の記述を参照した客観的な文献史料データに、考古学によって得られた科学的実証データを照らし合わせて、マヤ文明最晩年について考察します。本講義で取り扱う地域は、グアテマラ北部ペテン・イツァ湖のイツァ王国とメキシコ東部チアパス州のラカンドン密林です。ラカンドン密林では1695年に、そしてイツァ王国は1697年に征服され、そこでスペイン人によるマヤ征服が完了します。本講義ではこれらの地域における最新の研究成果とともに、マヤ文明最晩年を紐解きます。

お申し込み先

<https://forms.gle/HwnHTsMMdHXas5Dh8>

お申し込み締め切り

6月30日 12:00

お問い合わせ先

文明動態学研究所 ridc@okayama-u.ac.jp



*オンライン開催のため、ご参加希望の方は事前申し込みをお願いします。折り返し、参加用URLをお送りします。